夕刊
磐城新聞
一月二十五日發行
定價 一部 金六拾五錢 郵送料 金六拾錢 一ヶ月 金二圓
廣告 一行 金六拾錢 一回 金拾錢
福島縣平町字本町二十六番地 磐城新聞社
電話 平 五六四番
發行人 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

春、春、春

茶野給次郎

三

その結果生活に窮した農民が、一年の不作に代へて可愛い娘を登るなどの農村悲劇が隨所に見られ、越後の天下に横行するゆるんともなつたのである

農民角兵衛か地方の小部を獅子に仕立てゝ諸國巡業に出す樣になつたのも、つまりはこの農村の疲弊、悲劇を救はんとの策に出たことを思へば、江戸のちまたにさまよつた越後名物角兵衛獅子も郷土訛の道物であり、大道芸の演ず獅子心の幼童は村の貧困を物語る雄々しい戰士であつたのである

春は都大路に訪れて

春は動く！モダンは歩く！スピードの時代であるステップの、リズムの、躍進の世の中である

麗壽草の床の間を出て、紅梅の間をすりて春の男女は、青い空に降る金粉の陽光に濡れて、ブウルバアルを躍進する。一九三〇年のかれ等は眉を揺つて歩く。

かの女たちは腰をふつて。巷の銀座街頭に近代的感覺を發測と躍動させて歩く人々は『こま鳥のなく春のはるかさを象徴したステップを踏まなくては』いけない。いくらいゝ身なりをしてもその足どりが屠所の羊であつてはならぬ

世界の『モガ』さんたちをその歩調で斷念リードしたものは、活動寫眞のルーステーラア嬢である。かの女が『紳士は金髪がお好き』の中で、まことにシャナリ〳〵と小きざみに歩いた。その歩きつぷりは俄然世界を風靡した

又――うしろから見た歩きつぷりで世界を恍惚たらしめたものはかのレヴコウ――『モン・パリ』――の黒人のお臀を振めて藝術的な律動とそれ微妙一連鎖を偽つて運ぶかしきスーツを滑る早い、北幅の狂い歩調である。ばしく悲鳴をもたらすはしいお臀ひゝき〳〵したリズミカルな調聲は恐ろしい魅力をもつてゐた――と

野雁賦

清水延晴

昭和九年四月二十七日、桑折町にて安藤野雁の遺墨觀覽會を觀『野雁を語る』の座談會に出席す

○幼添ひの須磨子に死なれ呑助となれる野雁を誰も知らざりき

○『萬葉新考』死ぬまで離さざりしと云ふ野雁の心底を思ひ見むとす

（萬葉新考）は野雁の稿本

○何處に行きても個性が邪魔になりたらむ野雁は行路の恐怖に果てたる

○世に容れられぬ個性は酒に振舞へる野雁の奇行をおしなべて見よ

○『歌とまなくすすろに……』と詞書したる岩淵以後の風こゝろねたし

新、秋の七草

私見

尾藤靜風

三

（承前）巷の七草は食べる七草、秋の七草は見る七草

『秋の七草の謂』

ハギ（マメ科）ヲバナ（禾本科）クズ（マメ科）ヲミナヘシ（ヲミナヘシ科）フヂバカマ（キク科）名士ぞろひで、人に異論のナデシコ（セキチク科）あらう筈はない

アサガホ（ヒルガホ科）

月雪花を愛し、花鳥風月を賞でた日本民族の合致した花か、實に巧に撰ばれてゐるではないか

先日東日を鳥渡見たら『新・秋の七草』と云ふものが連載されてゐた。經由書の撰んだ理由書は讀まなかつたが、現在各方面の一流名士ぞろひで、人に異論のあらう筈はない

コスモス―菊地寛　おしろい花―與謝野晶子　秋の海棠―辻永　曼珠沙華（彼岸花）―齋藤茂吉　雁來紅―長谷川時雨　あかのまんま―高濱虛子　菊―牧野富太郎

コスモスが咲いて赤とんぼが飛ぶと秋だ。文壇人である菊地氏の撰んだ理由は……わたくしこんな嬉しい事はございません』

お染の表情はその喜びを物語つて餘りあるものだつたである。たしろい花は、女性の興謝野氏の好みに合ふ。秋の海棠は書學とかの女は頭をあげて、寛之助を見ようとしたが、すぐ恥氣が挫げてしまつたらしい美しさを表現し、曼沙華の牙のやうな指を、やるせなげに組み合はせて、ほつとため息をついた

『お京さん……』

と寛之助はいつた

『明日は大阪へ着くのでせう』

『さうです。豫定通りにゆけば』

『さうすると、かういふ折はまたとありませんよ。お染はまたとありませんよ。お嬢さまのお心持がわからないの？』

『……』

『お嬢さま、何とか仰しやいましな』

『わたしは大阪へ行きたくない。このまゝずつと江戸へ――さいせんお前へもそのやうにお言ひだつたけれど……』

後は口の中で消えてしまつた

『さうです。わたしは一日も早や江戸へ行つて見たいし人が來て見られすはならないといふ意味だつた

寛之助は立つた。さうしてあたりを見まはし、二足三足歩きまはつた。お染はかなしげに寛之助を見まも答へなかつた。かの女の姿が見えなかつた。多分積荷の向ふにかくれてしまつたのであらう

『ぉッ』

かれは半身を起した。お染は無意識にその手にすがつた。寛之助はハッとした

二人はまともに顔を向きあはせた。お染の眼に涙が光つた。やきつくやうな強い視線を寛之助は感じた

櫓の音、浪の音、遠く呻くやうな大勢の人聲。寛之助は夢からさめたやうに

『人が來ます。見られてはなりません』

『えッ』

お染は手をはなした。だが寛之助のいふそれは、もう人が來て見られすはならぬ月はしだいに光を増してくる

『お嬢さま』

『……』

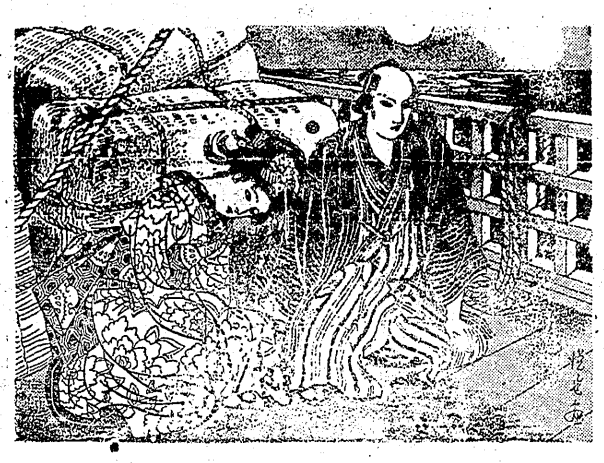
『お歸りなさい。わたしは囚人の身の上です』

『えッ』

『罪人です。お尋ね者です』

寛之助はかの女の耳元に顔を寄せて力強い聲でさゝやいた

お染は玉虫色に光る黒髪――高髷を振つてゐた



講談

黄金魔刄

（59）

高桑義生作
樋口悅也畫

蒟蒻のもの（二）

薔薇の花をまき散らしたやうな高い香りがいちめんに充ちた。それは快い香ひであるけれどもかん之助はその上に全身にまつてくる脂粉の香にむせかへつた

ふたりは默りこんでゐる寛之助は體を動かしかけたが、實は立たうとしかけたのだが、さう出來かねてじッと坐へた

『おほゝゝまるでねんねえですね』

お京はさういふ二人をねたましさうにながめて、いゝ

『お前がそれでは……何かお話をなさい』

『でも、わたしには何も話すことが……』

『まあ、仕方のない人ね』

『困るなあ』

と寛之助は當惑の樣子で

『だつて、さうでございますものかん之助さん……』

『はい』

『ほんに、わたしもおなじ身の上です』

話はわづかにほぐれた

『あなたは遊ぶ』

『いゝえ、かうして旅に出るまでは、籠の鳥の樂な身の上でした。で、この頃はさうは行きません。わたしは氣まゝにならない體ですから』

『だと思つてゐます。けれども

『ぉ京はさうは行きません。わたしは氣まゝにならない體ですから』

『ほんに、わたしもおなじ身の上です』

話はわづかにほぐれた

『あなたは遊ぶ』

『いゝえ、かうして旅に出るまでは、籠の鳥の樂な身の上でした。で、この頃は

『お京さん……』

と寛之助はいつた

夏日漁家

珠雲　小野務平

剖菜磯中繫小舟
碧蘆環屋曉蕭騷
漁翁倒壺中物
輕視玉倶意氣豪

小曲……ひなた

永形敏哉

ひなたは
天國のようだ
私は
蒼穹のかひなに
抱かれ
ふかい
眠りに
落ちて行かふ

△朝鮮征伐＝碧蹄館に戰爭を大破（文祿二）△羅疫發動のゼツナ發す（一、八二三）△英ゴルドン將軍埃及スダンに戰死（一、八八五）△關大阪市長長逝（昭和一〇）

1月26日 △朝鮮征伐＝碧蹄館に戰爭を大破（文祿二）△羅疫發動のゼツナ發す（一、八二三）△英ゴルドン將軍埃及スダンに戰死（一、八八五）△關大阪市長長逝（昭和一〇）

1月27日 △源實朝殺さる（承久元）△モツアルト生る（一、七五六）△北海道廳を設く（明治一六）△大谷句佛僧籍復歸（昭和一〇）

新車披露
スバラシイ乘心の良い
一九三六年式新車入車致しました。
商用に！、旅行遊山に！、婚禮！
是非御利用を願ます。
平町三丁目
セリザワタクシー
電話三九五番

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
（小僧さん入用）　電話一八二番

前田醫院
院長　前田清美
柩田町電話一二四

下痢滿妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
特約店
平町ネヅミ坂角
桑原商店
（坂本服實證ニ應ズ）

技術本位
安心して御依頼下さい
理修計時
平町二丁目
高橋時計店
（小店員募集）

新田町
榮ちやんの
しろうと料理
天下一品不味い
榮ちやんの
おでん

廣告

萬年筆なら!!!
ハーモニカなら!!!
何んといつても定評ある
佐々木商店へ
品種豊富　責任販賣
大景品付二重サービス
萬年筆美麗金文字御名入
ハーモニカ大懸賞付
舊三日
平町公園前角
佐々木商店
電話二三三

開院
五十嵐産婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

名湯
鹿の湯
湯之網鑛泉
二百餘年の昔、病める鹿が浴してゐたといふ鑛泉!! 昭和の今もこん〳〵と溢れ湧いて、バスを降りれば半里位の山間に、美しい風光と共に、浴客をお待ちして居ります。
効……神經衰弱、神經痛、リウマチス、胃腸病、子供の蟲氣、婦人病
○平町から日歸り御入浴もラクです。
○關本驛、磯原驛からバスの便あり。
○關南村役場に、御案内致します。
○自炊なさる方は道具ととのつてゐます。
茨城縣多賀郡關南村湯之網
（女中募集）　元湯　松屋旅館　赤津さよ
◎御滯在、團体は割引致します。

公債株式賣買
一般證券業務　電話一一七七
平町三丁目
大東部株式店
◎賢明なる諸子は瓦礫の裡より金剛石を
◎優秀株をポロ株中より發見せらるべし

吸入用酸素發生器
純酸素
◎秤ノ取
◎糸・絲・蚕ノ復致マス
モノサシ
マス
ハカリ
体温器
寒暖計
開内藥局
電話四〇番

實家ハ靜岡產地ノ茶問屋
製產家カラ直接需用家ヘ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣　大角園
平町揚槌小路

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹
海。のり羊羹　各一本　金十錢
右美麗二本箱入特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
小川郷驛前
製造發賣元　平屋賣店

新春家庭の必需品
大特價大賣出し
・御屠蘇具　屠蘇散標品ヲ宣傳サシ
・神具　神棚二寶一具各種陳列
・歳末、年始御贈答品
・新年用、食器各種
・御家庭用品大歳の市
・御贈答に便利な商品券
・御婚禮調度品タンス、鏡台、針箱其他一式大安賣
漆器、家具、神具、佛具、文具、雜貨　卸商　近江屋
平町二丁目
電話七二一番

福島縣平町二丁目
藥品百貨　西村屋藥舗
藥劑士　鈴木堅助
電話三番
振替東京六・二九九
仙壹一・二〇一

諸橋外科醫院
電話四六四
平町新川町七二
內科　外科
皮膚科　臟病科
花柳病科
レントゲン線
彌弘　鐵義　諸橋博士博學醫
奥學士學醫

金、金！雨傘行列

買る方も、買ふ方とて心待ちにした二日市だ！ 肝腎な處を雪にやられながらも蓋近くの二、三丁目十字路邊りは地方出の買ひ出し人で大雜沓メーキャップされた店頭で過去一ケ年のストック一掃に血走る商人の目！農村出のおつちやんのキヨトンとしたうるみ目、ひそかに爪を磨く惡魔の鋭い目等を追ふ其筋の取締の大目玉、雜沓する雪の二日市は視線の交錯だ——『景氣がいゝぞ』と捌りのよいのを見越してしこたま買ひ込んだ霹の着荷激增から觀てけふ一日中に商家へ轉げ込んだ現なまの高は大きい

雪に彩れた二日市賑ふ

◇けふの日の序奏は先づ田町の各商店からあげられた『中銀座會』の聲 昨年色々を仰いで怨めしい顏過うまでさほど店頭の飾りつけない商店でもこの景氣話しでは——と本町通りの店々は何れも色とり〳〵のメーキャップ振り、お蔭で染屋さん、看板屋さんは何處も大當り〳〵

◇商工會の肝煎りで張り込み强い各商店は午前一時ど云ふにもう開店だ、一番乘りして景品をどつさり頂かうと豫期しながらそれも早い心算で二時頃飛び出して來た田舎のお父つちやんも顏負け、『先着樣に限り……』の特別抽籤で景氣よくあげられる『一等さん大當り！』の呼聲とガラン〳〵打ち鳴らされる鈴の音に思はず鳩豆の態

◇弗々農村の連中も繰り出し初める肝腎な時刻を降り出した粉雪は見る間に雜沓の巷を彩つてわれ先にと進めした露天商人達も俄に田舎をひつ込めてみんな灰てるな資るな』のポスター一枚を町の要所々々に掲げ一段の注意を喚起する外左記事項を實施する

△商工横斷幕掲出 △各商店に選擧肅正表象飾付 △藥種防止を强調して小學兒童の習方、作文、圖畫作製 △祈願祭終了後午前十時から小學生徒並に一般の旗行列

小學生旗行列

昨報—選肅强調週間行事に關し平町選肅委員並に各小學校關係者は昨廿四日町役場に參集協議したが行事中最終日に行ふべき豫定の旗行列を二十七日に繰上げ午前十時から

△第一校 校門—搔槌小路—鍛冶町—南町—新川町—五丁目—本町—紺屋町—縣社廟—校門

△第二校 校門—搔槌小路—田町—白銀町—大工町—五丁目—本町—紺屋町—縣社前—校門

△第三校 校門—鎌田町—立町—五丁目—本町—紺屋町—研町—材木町—堂の前—中町—大町—新川町—校門

の行程による行進を行ひ肅正强調の趣旨徹底に努めることになつた

流感愈猖獗

植田で七百七名

今日此の頃は何處へ行つても選擧と流感の話しで持ち切りだ、その流感も昨今の酷寒で一層蔓延し小學兒童の罹病者は昨報の如く數日前に比し數倍と云ふ憂慮すべき數字を示し平町の各家庭でも一人や二人は何處でもとりつかれて居る

植田署でも此程縣からの更に町では『正しき一票棄て一票棄てるな資るな』のポスター一枚を町の要所々々に掲げ一段の注意を喚起する外左記事項を實施する

△商工横斷幕掲出 △各商店に選擧肅正表象飾付 △藥種防止を强調して小學兒童の習方、作文、圖畫作製 △祈願祭終了後午前十時から小學生徒並に一般の旗行列

巨匠の力作に 神域は飾らる

愈々完成したコマ犬

巨匠赤堀信平氏が先年來心血を傾注して製作を急いで居た諸橋久太郎氏發起に係る縣社子鍬倉神社の狛犬は此程愈々竣功したので二十二日赤堀氏の來平を迎へ莊嚴なる献納式を行つた

狛犬の高さは約三尺、臺石は五尺で岡山縣産高鳴御影石を使用した見事な出來榮えで社頭の一偉觀を添へた尚献納式は來月中旬盛大に行ふ豫定であり昨日の舊元朝の參拜者に初御目見得した

縣下青年小學校長會議

濱三郡關係は來月九日平町で開催

本縣小學校長並に青年學校長會議は來月六日より九日日方部的に縣下四都市に於て四日間午前九時より逐切の手續きを齊ます事となつた

敷地買收を纏り 愈々建築案協議へ

—第四校計劃進む—

地元民の熱心な運動が奏功して着々計劃を進められて居る第四小學校建設敷地買收問題は早くも地主二十四名中二十二名の承諾（契約金坪百圓交付）を見、殘る二名も近く決定されるので町では明十一年度豫算にこれが敷地買收費として三萬四千餘圓を計上する事に決定、今年十二月稻の刈り上げを待つて全部を買收、一收間